

第4回 みどり市立学校適正規模・適正配置笠懸地区検討委員会 議事録

○日 時 令和8年6月25日（木） 午後7時05分～午後8時45分

○場 所 笠懸公民館 2階 サークル活動室2・3

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置笠懸地区検討委員会委員】10名

委員長	田口 和人
副委員長	近藤 博一
委員	坂本 光博
委員	小内 武明
委員	大月 亮
委員	藤生 彩香
委員	大舘 妙子
委員	藤生 義道
委員	横山 美郷
委員	黒澤 寿一

（欠席者）4名 委員 春山 寛之 委員 津久井 麗華 委員 増田 博司
委員 大澤 智

【みどり市教育委員会】 10名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
みどり市教育部	部長	鈴木 早苗
教育総務課	課長	岡 研太郎
学校教育課	課長	森田 修
教育総務課	課長補佐	園原 裕一
学校教育課	課長補佐兼指導係長	知久 鉄平
大間々学校給食センター	所長	下山 拓弥
教育総務課施設係	係長	大窪 進
教育総務課総務係	主幹	金高 吉宏
学校教育課教職員係	管理主事	西村 晋一

【報道機関】 桐生タイムス社

【傍聴者】 なし

○議事の概要

1 開会〔開始：午後7時05分〕

2 委員長あいさつ

3 報告事項

（1）地区別検討委員会経過報告

・事務局より令和7年度の大間々地区と東地区の検討委員会について、経過報告を行った。

＜大間々地区検討委員会について＞

○委員会を3回開催。

○適正規模・適正配置については、次の3点が主な意見として挙げられた。

①大間々北小と大間々南小を統合し、小学校2校にしていくことが望ましい。

②義務教育学校化ではなく、小学校、中学校を存続させる方向が望ましい。

（小学校、中学校で2回、リーダーの経験をできるようにさせたい）

③みどり市としての一体化や財政的視点に立って、みどり市全体として適正規模及び適正配置について考えていくべき。

○適正配置については具体的な協議が進んでいない。適正規模と共に今後も協議を継続。

○給食提供方式については、クオリティに差がないのであれば、財政的視点、アレルギー対応給食など、センター方式としていくことが望ましい。

＜東地区検討委員会について＞

○委員会を3回開催。

○適正規模・適正配置については、あずま小中学校を存続。

○少子化に対応した魅力ある学校づくりについては、個別最適な学びを通じた個を伸ばす教育を実践し、情報化・国際化・多様化に主体的に対応できる児童生徒を育成していく。

○東地区では、保育園と小中学校の一貫教育校の立ち上げ準備をしているため、保小中一貫教育についても協議。保小中一貫教育については、他ではできない特色ある教育として、明確なビジョンをもって推進していく。

○給食提供方式については、センター方式の継続が望ましい。

○第4回委員会で答申案をもとに検討を行い、その後答申という流れを予定。

4 協議事項

・前回の協議内容〈協議①〉について、【資料1】に基づき、委員長から説明。

・意見の概要①について、【資料2】に基づき、事務局より回答。

発言者	発言内容
議長（委員長）	資料2について説明がありました。笠懸町は人口が増えているという報告内容です。このことや資料1のことも踏まえて何かご意見ご質問はありますか。
委員1	前回私が質問した内容だと思います。桐生市からの転入だけなのかなと想定していましたが、大きな市からも転入があって、この先も人口増が見込めるの

	かなという印象を受けました。さらに、年代別の内訳を見ると、小学校入学を前提として引っ越してきている人が多いのかなと思います。9区の人口が増えているのは確実に笠西小の影響だと思うので、新しい小学校を建てることで人口増につながるんだなという印象を受けました。調べていただいてありがとうございました。
--	---

・適正規模（諮問１）・適正配置（諮問２）について、委員会としての方向性を以下の内容で承認。

○児童の教育環境、児童推移、人口増、避難所等の観点から４校維持の方向が望ましい。

○４校維持の場合、学校配置については教育委員会の基本方針のように笠懸小の南への移転が望ましい（長期的な視点に立っても、笠懸小を南へ移転しておくことで、将来の柔軟な対応が可能となる）。

（１）給食提供方式について

・前回の協議内容〈協議②〉について、【資料２】に基づき、委員長から説明。

・みどり市笠懸地区学校給食提供方式のこれまでの検討の経過について、【資料：教育総務課作成】に基づき、事務局より説明。

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発 言 内 容
議長（委員長）	かなりさかのぼりながら経緯を説明していただきました。資料もありますのでそれに基づきながらご質問等をお願いしたいと思います。資料のNo.1を見ると、かなり議会からの意見があって、第三者委員会でも検討したという流れがあり、教育委員会としては自校方式のよさをできる限りセンター方式の中に取り入れていくというスタンスを持ちながらセンター方式を展開したいという話だったと思います。委員２さんは自校方式しか経験していないと言っていましたよね。
委員２	私もそうですし、子どももです。小学校でも中学校でも自校方式です。もちろん最初は自校方式っていいなと思っていました。他の学校にないので、うらやましがられるくらいいい環境だなと誇りを持って育ってきたし、子どもたちにも「学校の給食室で作ってるっていいよね」と話したり、「〇〇先生の給食めっちゃおいしいんだよ」と子どもが話したりしています。給食の香りがするのもいいなと思っていたのですが、この会議に参加させていただいていることと、ご縁があって今まで行ったことがなかった笠懸の全ての小学校に行く機会があって、行ってみると、センター方式の学校でも自校方式の学校と変わらず、子どもの好きな給食や食育に関する掲示物が廊下に掲示されていたりしていました。自校方式じゃなくても補い方によっては補う方法があるんだなと感じました。だから自校方式にこだわる必要はないのかなと思いました。欲を言えば、すぐそこで作ってるっていいなともちろんある中で、取り組み方によっては子どもに伝えていく方法はあるのかなと思います。栄養バランス等については全然心配していません。衛生面については、給食センターの方が安心感があります。母親として食育の部分が心配だったので、取り組み方を考えていけばいい

	のかなと考え方が変わりつつあります。
委員 3	私は給食センターしか知らないで育ってきたので、正直給食センターに対しては何の抵抗もなく、反対の意見ありません。実際に大間々の給食センターの給食を試食する機会が何年か前にあったのですが、とてもおいしくいただきましたし、給食センターもいろいろ工夫していることを知りました。学校とコミュニケーションを取って好きな給食ランキングを毎年取っていて、その時期が夏だから苦手・ワースト1が絶対にゴーヤチャンプルーになるとか言っていました。そんな面白い話も聞けたりして、給食センターも給食センターなりにいろいろ工夫してやられているなと感じました。なので、私は反対の意見は何もありませんし、心配もしていません。
議長（委員長）	幼稚園やこども園の方々は何か声を聞いていますか。
委員 4	何も聞かないです。こども園なので、みんな忙しくて保護者同士で話をする機会はほとんどないですね。
議長（委員長）	「〇〇小学校は自校方式でおいしいよ」「センター方式もなかなかいいらしいよ」といった声はどうですか。
委員 4	全く聞かないです。私が小学校に通っていた頃は、「学校の先生は笠懸の学校に転任になると給食がおいしいからテンションが上がる」と先生たちが言っていたのは覚えています。
議長（委員長）	それは笠懸が自校方式だからですか。
委員 4	そうです。桐生市など他の地域は皆センター方式だったので、「笠懸だけは給食がうまいんだよ」という先生たちの会話は昔聞いたことがあります。
委員 5	多分私たちが学生のときと今とでは技術の差がきつとあるのではないかなと思います。 ところで、私の娘が小学校に入学したのですが、今度9月に給食の試食会が復活しますよね。それにはどんな意図がありますか。
委員 6	センター方式の学校も試食会をしている学校は結構あると思います。1年生の保護者の方は、お子さんが食べている給食がどんな味か召し上がったことがないので、それを子どもたちと一緒に配膳して食べていただいて、毎日提供されている給食を体験していただくことを目的としています。
委員 5	それは笠東小だけですか。それとも笠懸地域だけですか。それともみどり市全体ですか。
委員 6	特に統一して行っているということではないです。笠東小も、コロナの頃は中断していましたが、昔から行っていると聞いています。前任校の大間々南小はセンター方式ですけど、試食会は行っていました。1年生の保護者を対象に行っている学校が多いのではないかと思います。
委員 2	笠東小は去年から復活したんですよ。上の子どもが在籍していた頃はコロナで試食会がずっとなかったのですが、下の子どもが去年入学したタイミングで復活して、懐かしいと思いながら食べました。
委員 5	この間その話題が家で出て、この会議にも参加しているので、自校方式とセ

	ンター方式の給食を両方食べる機会を作れるんじゃないかなと思いました。
委員 2	食べ比べをしたことがある方って少ないですね。
議長（委員長）	食べ比べをされたことがある方は、先生にはいるかもしれないですね。子どもも保護者も自校方式ならずっと自校方式。センター方式ならずっとセンター方式だから、違いを知っているのは教師のみということですね。
委員 3	私はどちらも食べました。上の子が中学生なのですが、コロナ前の小学 1 年生の時に試食会があって、笠北小は自校方式なので自校方式の給食を食べました。そして、その数年後にセンターの給食を食べました。でも、どちらもおいしかったので、こっちがいいということは全くありません。
委員 2	先ほどお話が出たように、昔ははっきりと、お話によく挙がるくらい、学校で作る給食がおいしいという印象がありました。でも委員 5 さんがおっしゃるように、今の技術を考えるとどちらも温かいまま届くでしょうし、その辺りは心配ないかと思います。
副議長（副委員長）	私は学校に勤務していたので、自校方式とセンター方式の差は何があるのか考えてみました。一番大きな差は、そこに作る人がいるということ。子どもにとってそこに自分たちが食べるものを作る人が存在していて、その人たちと行き交うということがおいしさにつながるのではないかと思います。給食を作る人がいて、その人と挨拶をしたり一緒に掃除をしたりする交流そのものが、味そのもの以上に値打ちがあるのではないかと思います。 事務局に確認したいのですが、前回高崎市の話が出まして、奇跡の高崎市、全ての学校が自校方式をとっているとのことでした。なぜ高崎市は経済的に負担が大きいのにわざわざ自校方式をとっているのか。その意味を高崎市はどう見出したのか。経済的なことや経済的でないこと、味など何かを見出したから高崎市は自校方式をとったのではないかと思います。そんな高崎市の視点というものを事務局は自分たちの資料として考えたのか、そしてそれを考えた上でこのような形になったのか。それから、先ほど給食を作る音がする、匂いがする、完成品ができる、そこに作る人がいる、その人と挨拶ができる、といった世界観は、センター方式とは全く違うのではないかと、という感じがします。だから、その世界観を失ってまでセンター方式にすることは必要なのか。食器が重なる音がする、洗っている音がするといった感性の問題について、どの程度重きを置いて見ていたのか。それとも費用の視点が中心だったのか。その辺りのことを聞いてみたいと思います。もう一つ。ひょっとして笠懸西小に給食室を作る気だったのかなと今でも思っています。丁度給食室のスペースがあるので。学校の西南に。食材を運ぶトラックが行き交うだけのスペースもあります。だからひょっとしたら笠懸西小に給食室を作りたかったのかなと思います。最初は作る予定で設計していて途中で変わってしまったのではないかと近所の人のお話を聞くとそう思えてしまいます。いろいろ話してしまいましたが、給食について高崎市を参考にしたかということ、それから味には見えない音や香りとかについて、私はすごく値打ちがあると思いますがそういった値打ちについて

	どのように判断しているかを教えてください。
議長（委員長）	高崎市のことについて、事務局からありますでしょうか。
事務局 1	高崎市の自校方式については私たちも参考にさせていただいた経緯があります。高崎市の方にも視察に行かせていただいて、状況を聞かせていただきました。高崎市は、旧市内は全て自校方式、合併したところはセンター方式を採用していきまして、市内全てが自校方式ということではありませんでした。高崎市の職員からは、各学校に給食室を作ることについて、経費面では非常に厳しく大変であるとのことでした。ただ、今おっしゃっていたように、近い距離で給食の調理員さんと話ができることや食育の面が非常に重要だということから、高崎市は自校方式を採用しているということでした。みどり市としては、顔が見える状況については、児童生徒に配付されているタブレット端末を利用して学校と給食センターを結んで、栄養教諭さんたちが作った動画を流したり、オンラインで会話をしたりできるようになってきました。そういった工夫を取り入れながら給食の調理員さん等とコミュニケーションをとれるようにしていきたいと思っています。そして、自校方式のよさを取り入れていきたいと考えています。 それから、匂いの部分については確かに重要だと思っていますが、センター方式では、いろいろ事情がありまして、匂いは外に出さないというようにするということがあります。H A C C P（ハサップ）という衛生管理基準をしっかりと守ったものになりますと、なかなか匂いは外に出て行くものではありません。今後新しい給食室を作るとなると、やはり衛生管理面が非常に重要になってきますので、それぞれの給食室はさらに大きなものになってしまいます。それを実現するためにはますます教育的予算がかかってしまう懸念もあります。 笠西小を作るときに給食室を作る予定であったかについてですが、当初から自校方式ありきで考えている、センター方式ありきで考えているということはありませんでした。2つの方式を比較してそれぞれのよさを確認した上で、みどり市として今後持続可能な財政運営や継続的な市政運営ができるのはどちらの方式なのかを判断して、センター方式の方向性へ舵を切ったということです。自校方式だったらここに給食室を作るという考え方もしてきましたし、センター方式ならいなくなるという考えを持ちながら比較検討をした結果、センター方式となりました。そのため、笠西小には給食室は作らないでセンターから配食をしたいという結論になりました。
議長（委員長）	そういった状況があるということです。委員 2 さんはセンターの給食を食べてみたいとお考えですか。例えば試食的に。
委員 2	そうですね。食べてみたいと思います。給食センターの方に以前お伺いして、何人かでまとまってという話もあったんですけど、自分が平日に仕事をしなさいまして、平日にお母さん方を募ってランチがてら給食センターにということとは現実的にできていません。今自校方式をとっている学校も今後はセンター

	方式に移行するだろうということは、何年も前から、署名活動をされている頃から噂で耳にしていたので、興味を持っている方は他にもいらっしゃると思います。ぜひ学校でやっていただくと行ってみたい、行きやすいと思います。自校方式の学校で給食センターの給食が食べられる試食会があると体験しやすいかと思います。全然変わらないことが分かれば地域の方の意見も変わってくると思います。自校方式がいいと言っている人たちは、すでに卒業させていただいた年配の方だったりお子さんがもう学校に通っていない方だったりします。でも実際にこれから経験していくのは今の世代からもっと下の世代になるので、そこにつながるような体験ができれば違うのかなと思います。
議長（委員長）	この委員会として答申の中身に入っていくところがありますので、今おっしゃったようなことを委員として経験されてというところがあると思います。例えば学校の方でこの日は給食センターの給食を味わおうというようなことは実施可能ですか。
委員 6	それは通常の授業日でしょうか。そうしますと、センターが本来配食すべき学校の給食があると思いますので、食器の数や調理場のキャバ等の問題で、通常の量にプラスアルファで試食を用意して、それを届けるとなるとトラックの都合もあると思いますので、もしかしたら少し難しいかもしれないですね。
委員 5	修学旅行など生徒たちがいない学年があるときに、その一学年分で補うというのはどうか。配送のところはよく分かりませんが。
議長（委員長）	今日は事務局に給食センター所長が出席しています。今のことについてお話しできることはありますか。
事務局 2	笠懸で給食センターの給食の試食をしたいということであれば、笠西小にセンター方式の給食が提供されていますので、笠西小で行うことは可能かと思います。
議長（委員長）	笠西小に来てもらうということですね。なかなかお子さんがいる学校での実施は難しいようですね。
事務局 2	配送で言うと、センターは人間の高さくらいの大きなコンテナで配送しますので、そのコンテナを入れる場所がないと難しいです。場所がないとなると、コンテナの中にある食缶を直接運ばなければなりませんので、コンテナが入れられるところでやらせていただきたいと思います。
委員 5	食缶は何個くらいありますか。いわゆる給食の食缶ですよ。
事務局 2	はい。二重食缶という保温性の高い食缶になります。
委員 5	それをクラス分運ぶということですか。年に 1 回くらいなら P T A の方々に力を借りられればできなくはないかと思います。 先ほど委員 2 さんの意見にもありましたけれど、本当にそれをやろうとっていろいろ意見を出せば、音とか匂いの問題だってできなくはないのかなと思います。例えば匂いについては、調理の匂いじゃなくても、給食が届いたときに匂いが漂ってくるような経験ができるように何か工夫しようと思えばできなくもない気がします。何かルールがあってできないのかもしれませんが。あと

	作ってくれる方だって、頻繁に学校を回ってくだされば交流もできると思いますけれど、それが無理だと言われてしまえば無理なんだと思います。
議長（委員長）	今回長い時間をかけて給食提供方式についてご意見を伺ってきています。笠懸地区の答申に方向性を入れるとなると、あらためて検討するところはないという考え方でよろしいですか。この委員会の答申で仮にセンター方式を承認したとすると、その後はそのまま進んでいくのでしょうか。それとも議会が関係してくるようなことがあるのでしょうか。
事務局 1	今回、適正規模・適正配置ということで、笠懸地区については笠小を南へ移すということになりますと、その学校の給食をどうしようかという話になり、他の学校にも影響が出てきますので、給食については一体的に考えていきたいと思っています。今までの経過を説明させていただいたのは、教育委員会としてセンター方式を進めていきたいと議会で説明する中で、住民の皆さんの意見を十分聞きながら進めてくださいということでしたので、今までも試食会等を行わせていただきました。そして、本検討委員会の最終的な判断として、今までの経過を踏まえてセンター方式の方向性が示されれば、笠小の南への移転の中に給食センターを新設するという方向性が示されますので、我々も学校移転について本格的に動くことができます。ということで、本委員会の結論が今後の方向性になります。
議長（委員長）	みどり市の中で自校方式をとっているのは笠懸地区の学校だけですから、本委員会の決め方が大きなポイントになってきます。決定的な反対意見は今のところ出ていません。教育委員会からは、センター方式の中にできるだけ自校方式の持つよさを取り入れていくということです。そうすると、自校方式のどんなよさを取り入れていくのか分かってくるとよいと思います。実際に食べてみてということを含めながら、自校方式の持つよさをどのように取り入れようとしているのかが明らかになると、その方向性もより納得のいくものになると思います。
事務局 1	説明不足で申し訳ありませんでした。資料の 9 ページからになりますが、自校方式のよさとセンター方式における取組状況の資料を付けさせていただきました。「自校方式のよさとセンター方式での対応の可能性について」ということで、センター方式に自校方式のよさをどのくらい取り入れられるかを研究させていただいた結果になります。「食育に優れていると感じられる」については、学校の食育については市内で統一した指導をしていきたいと思います。これまでそれぞれの栄養士さんが行っていた食育を、センター方式になった際には統一した指導で子どもたちを育てていけるように、今いる栄養士さんもセンターの栄養士さんと相談しながら同じことができるようにしています。そうすることで、自校方式との差を補完できるのではないかと結論です。次に、「自校給食は、手作りで温かく美味しいというイメージがある」については、センター方式でも自校方式でも同様に、調理員さんが手作りで調理を行っていますので同じではないかと思います。それから、温度については二重食缶

	を使って65℃以上を保っており、センター方式でも同様に温かい給食が食べられますので、自校方式との差を補完できると思います。3番の「クラスと給食調理場とのコミュニケーションが取りやすいと感じる」については、センター方式では難しい部分になります。ここについては少し差が生じてしまうということで△にしています。4番の「自校の子どもは給食を残さない」については、センター方式の方が給食の食べ残しが多いという話もあるようです。センターではこぼしたりすることを含めて多少多めに作りますが、調査では食べ残す量について差はありませんでした。それ以降、5番の「栄養士、調理員が責任をもって仕事をしている」、6番の「地産地消でしっかり食育ができる」についても違いはありません。8番の「調理員や生徒、教員との距離が近い、対応が早い」については、センターではあらかじめ給食や食器の予備も併せて配送しているので、カバーできるのではないかと考えています。9番の「親が自校方式で育った環境を子どもにも味わわせたいと感じる」については、やむを得ないと思います。自校方式の給食をおいしいと感じている親御さんがいるのは当然なので、センター方式の劣る部分だと思います。10番の「栄養士としての個性が生かせる」については、統一した献立を取り入れていますので、補完できると思います。全体としては、どうしても難しい点が2点ありますが、それ以外については、センター方式に自校方式のよいところを取り入れられるということ、調査を行いながら結論を出した経過があります。このことを踏まえて見ていただきたいと思います。
議長（委員長）	このような比較検討をされてセンター方式を追究してきたということです。
委員 7	7ページと8ページにアンケートの結果がありますが、これを参考にした部分はないのですか。それから、最終的決断はやっぱり議会ですか。この委員会で方向性が決まっても、議会でひっくり返ってダメになってしまう可能性はあるのですか。
事務局 1	アンケート調査については、笠西小のPTAの方にも来ていただいて実施しました。今までは笠小で自校給食でしたが笠西小でセンター給食ということで食べてみた結果はどうだったか。最終的にアンケートをとった結果が自校方式が23%でセンター方式が36%ということでした。どちらともいえないという方が30%いますが、センター方式がよいという結果でした。ただ、2回目の調査では、笠懸幼稚園で自校方式を推す意見が多くあり、全体では自校方式が33%、センター方式が25%という結果でした。2回調査をしましたが、別の結論が出たので、これまでの検討の結果を踏まえて総合的に考えると、今後持続可能な運営を行っていくためにはセンター方式であるという結論に至りました。こういった経過から、教育委員会としての考え方を出しているということです。また、議会につきましては、2ページのまとめにあるように、試食会を行って市民の皆様のご意見をお聞きした中で、センター方式がダメだという意見はありませんでしたので、それに基づいて市として改めてセンター方式を行いたいということを議会で説明した結果、ご質問はなく終了しました。そ

	ういった経過を経て今回本委員会にて検討いただいていますので、結論を出していただければその旨を議会に報告できますし、新しい学校をつくる際にもセンター方式の方向性を示せると考えています。
議長（委員長）	長いこと自校方式をやってきたところの最終転換ですよ。それをするという判断をこの委員会が答申として出すということになるわけです。だから、その意味合いというのは大きいだろうと思います。教育委員会の方でこれだけ積み上げてきていますので、この辺りで判断かなと思う部分もありますが、もうちょっとどうなのかと。例えば今日はご出席の方が少なかったりしています。センター方式となった場合はもう1つ給食センターを新たに造るわけですよ。それを進めながら各学校にある給食室を廃止の方向で手を入れていくという作業が走り始めることになります。そんな意味合いがあります。本日の時間も迫っているわけですが、判断が今日できるでしょうか。
委員 7	ある程度方向性を決めないといつになっても進んでいかないうような気がします。
議長（委員長）	今までも給食提供方式については議題に挙がっていましたが、扱う時間が短かったです。だから今日は全面に挙げて、しっかり時間をとって検討しました。しかし、今言われたように、きりが無いという意見もあります。
副議長（副委員長）	「いつ頃までに」ということはありますか。前に笠西小の給食についてすごい騒ぎがありました。私は現場にはいませんでしたが。
議長（委員長）	騒ぎとは何ですか。
副議長（副委員長）	笠西小に自校給食の給食室を造ってほしいという親の意見が相当強くて、SNS上では「行政はまったく聞く耳をもたない」とかいろいろな意見が出てかなり盛り上がりました。だから、私たちがここで結論を出すと、今度は私たちがそれを引き受けることになりますよね。そうすると少しこわいです。このままだと、笠懸に住んでいた人たちの意見がまとまって、「これでいきましょう」ということにはまだならないと思います。いつ頃までにある程度の線を出さなければならないというような時間的な制約はありますか。それから、自校方式の学校の親たちにどちらがいいか調査する時間や議会の人たちと話し合う時間など、どのくらい時間の猶予があるのでしょうか。あと何ヶ月と短いのであればもっと真剣にやらなければいけないと思います。私はあの攻撃をそのまま自分で受けたくはないです。すごかったですから。あのときの住民の攻撃の仕方、経験したくはないです。
委員 7	9区でもそのような話は出ました。でももう4年経ったんだから、今の保護者にアンケートしてみたらどうでしょうか。「笠西小がセンター方式になってどうですか」とは聞いていないと思うので。
副議長（副委員長）	そうなんですけど、給食センターができるということは、そこにお金をかけるということだから、新しくできる学校も笠東小も笠北小も皆センター方式に移っていくわけです。そうすると、今まで自校給食で満足していた親たちは一体どう動くのか。どうなるのかという不安はあります。かなり攻撃されるよう

	な不安があります。
委員 5	やっぱりだから試食会はやらなくてはいけないと思います。試食会をするためにいろいろ案を出して実行していかないといけないと思います。「ちょっと無理があるのでできません」となってしまったら議論は進んでいかないですね。やっぱりやろうとなったらやらないと前に進まないと思います。
議長（委員長）	「やろう」と今おっしゃったのは、「試食会を」ということですね。
委員 5	まずは試食会ではないでしょうか。今一番知りたいのは、味などに優劣があるのかないのかといったことでしょうか。
議長（委員長）	それは自校方式の学校にセンター方式の給食を入れてみようという話になりますか。
委員 2	試食するとしたらセンター方式の給食を試食しないとアンケートもとれないと思います。何もせずにアンケートをしたら笠西小のときと同じになると思います。
委員 5	結局、自校給食の方がイメージがいいので、何もしないでアンケートをとったらそちらの方に流れていくと思います。
委員 2	今までの経過を今日お話しいただいて、自校方式がいいと言っておきながら、ここまでたくさんの方がこれだけの時間をかけて自分たちの子どもたちのためにご尽力いただいていたところに、本当に驚かされています。私もこの委員会に参加しなかったら噂で耳にするだけで、多分他の保護者さんもほとんどそうだと思います。ここまでの結果が出ている中で、言い方は残酷かもしれないですけど、センター方式にしていきたいというみどり市の方針を、「自校方式がいい」と言っている方にどれだけ納得していただけるか、それだけだと思います。ここで「どちらにする」という段階ではなくて、センター方式をどれだけ理解していただくかというところに方向性を持っていく段階なのではないかと思います。
委員 5	前例もあるわけだから、0から1と1から2では違うし、状況もある程度柔らかくなってくる部分もあるのではないかと思います。しっかり理解してもらえるようにやっていただければ、理解してくださる方も多いのではないかと思います。
委員 2	自校方式がいいのは分かっています。そこでお母さんが料理を作ってくれている、給食のおばちゃんが料理をしてくれている、これ以上にいい環境は絶対にはないとは思っていますが、町のことや市全体のことを考えればセンター方式にしていく方がいいと納得もしています。そのことをどれだけの方に納得していただけるかだと思います。自校方式がいいと言ってもそれになる可能性は今のところ見えないし、笠懸が自校方式になったところで、「自校方式がいいから高崎市のように東も大間々も今後自校方式に切り替えていきましょう」という結果になるようには見えないので、センター方式にしていくために最善の道を探ることが議題として挙がってくるべきなのかなと思いました。
委員 7	私は笠西小の評議員だったのでセンター方式の給食を何度も食べています

	が、味はおいしいです。安全性も大丈夫だと思います。それをもっとアピールするしかないのではないのでしょうか。この中でセンター方式の給食を食べたことがある人はいますか。
議長（委員長）	私は食べました。
副議長（副委員長）	私も食べましたが、笠東小の自校給食の方がレベルが高いと感じました。
委員 7	それは個人的な好みもありますよね。大間々の子どもたちも笠西小と同じ給食を食べていますよね。笠西小の給食は大間々から来るわけですから。
副議長（副委員長）	でもやっぱり自校給食は違います。申し訳ないけど違います。
委員 8	どっちがおいしいという議論をする必要があるのかなと思います。健康面や栄養摂取等いろいろ考えた中で、「冷たくて全然おいしくないよ」となれば話は別ですけど、どっちがおいしいということを論ずる必要があるのかなと思っています。先ほどセンター給食を食べて「おいしかったですよ」という感想をもっているならそれでOKではないのでしょうか。笠西小ができて4年経ちます。高学年の子たちは自校給食を食べているので、両方の給食を食べたことになります。でも、何か問題が起きているという話は聞いたことがありません。以前の委員会で、子どもたちは普通においしいと言っているからいいのではないかという意見もあったと思います。だから、どっちがおいしいを求める必要はないと思います。
議長（委員長）	そうすると、現在自校方式で給食を食べている子どもたちの親御さんに納得してもらうようなアプローチを1回やって、その反応をもって、私たちとしては方向性として示せると思います。この委員会として、現在自校方式をとっている学校の保護者あるいは子どもたちに対してセンター方式の給食を知ってもらうための何かワンアクションをやった上で、教育委員会が提示している方向に進もうというスタンスにしてはどうでしょうか。
事務局 3	今、味についてのご意見がありましたので、5ページの一番上をご覧ください。例えばということで参考に見ていただければと思います。焼き物に関しては、自校方式ではレトルト製品をボイルしています。一方、センター方式ではオーブンのような機械で焼いて調理しています。このように、センター方式の方が機能が充実しているところもあります。また、ごはん、パン、牛乳、デザートは業者が納入するため差はありません。資料についてご案内できなかったところもありますが、4～5ページのところで、自校方式とセンター方式ではほとんど差がないということ、もしくは衛生面については今現在ではセンター方式の方が優位であることがまとめてありますので参考にさせていただけたらと思います。
議長（委員長）	まだ議案が残っていますが、今日は給食提供方式の問題に限っての会になると思います。先ほど申し上げましたように、方向性として教育委員会が提示しているものはありますが、この委員会の中で、現在自校方式の給食を食べてい

	る子どもたちやその保護者の方々に納得してもらうような何かワンアクションをやって、そこで方向性を示したいと思います。何もしないで資料だけ見て説明を受けて、おいしいおいしくないと言っているだけでは判断ができないと思います。ただ、今日については、そのワンアクションについて何ができるのか議論することはできません。ここで、給食センターにお願いしたいと思います。教育委員会としてセンター方式を広げていきたいということを前提にしているわけですから、自校方式の皆さんにアピールするような手立てとしてこんなことができるということを、次の委員会までに出していただきたい。次の委員会までに実行できないかもしれませんが、答申を出す場合でも「何かワンアクションを経た上で」という付帯決議的なものを加えながらやるということはあるかだと思います。いかがでしょうか。
委員 5	資料も材料ですけど、何の材料もないままでは判断ができないと思います。メニューだけ渡されて「判断してください」と言われているのと同じような気がします。なので具体的な材料がほしいです。
委員 7	でも、メニューは自校方式もセンター方式も同じですよ。日にちによって違うのですか。
委員 5	今は例え話です。給食のメニューはある程度一緒だと思います。
事務局 3	同じです。
議長（委員長）	そのような方向でどうでしょうか。今日結論を出すのは難しいです。次回も給食提供方式について協議を行いますので、みどり市のセンター方式を積極化させるための手立てを給食センターから提案していただくということによろしいでしょうか。
事務局 2	承ります。
議長（委員長）	給食提供方式については、今日のところはそのような形で確認を取りたいと思います。時間が過ぎてしまっていますが、もう 1 点「少子化に対応した魅力ある学校づくり」について協議することが予定されています。これは次回の委員会で協議をしたいと思います。給食提供方式についても次回給食センターから提案をいただき、それを受けて確認をしていきたいと思います。

（２）少子化に対応した魅力ある学校づくりについて

- ・委員会終了時刻を過ぎたため、次回委員会に持ち越し。

5 諸連絡

第 5 回委員会 日時 令和 8 年 9 月下旬～ 1 0 月の期間で開催予定 19:00～
会場 笠懸公民館 2 階 サークル活動室 2 ・ 3

6 閉会